

# 2020年度 統括事業所万寿 事業報告・決算概要

(養護老人ホーム「万寿園」・軽費老人ホームA型「第三万寿園」)

養護老人ホーム万寿園と軽費老人ホーム第三万寿園は同一建物内にあることから、日常の事業運営は一体的に行っている。

## 1 利用実績等

### (1) 養護老人ホーム万寿園

#### ア 在籍者率

・各月初日の年間在籍者率は99.7%でありほぼ前年度並みであった。

#### イ 入所状況

・16名の入所者があった。うち、入院先や救護施設から帰来先が無いケースが5名、家族DVのケースが2名、在宅での独居継続が困難となるも特養対象とはならないケースが3名であった。緊急性が無い養護待機者は基本的に個室を希望されるため、全室二人部屋の万寿園に対しての紹介はほぼ無い。このため、虐待や立ち退き等の緊急性が高いケース、あるいは精神疾患・パーソナリティ障害等の対応困難ケースの割合が高くなっている。

#### ウ 退所状況

・年間退所者20名のうち死亡9名、長期入院4名、介護保険施設入所7名であった。要介護状態が重くなっていく利用者に対し、介護保険サービスも活用しながら出来るだけの対応を模索しつつ、市区町村に対しては提案を基本とし、丁寧な退所支援を行い、利用者、家族及び実施機関との信頼関係の構築に努めている。

#### エ 要介護認定者

・全体の認定者率は前年度の41%から減少し38%であった。また、要介護度別の割合については、大きな変化はないが要介護1・2、要支援1・2の割合がともに若干減った。

#### オ 介護サービス利用状況

・ニーズとして入浴介助が必要な利用者が多く、デイサービスやヘルパーによる介助を受けている。介護サービスの利用総量としては若干減っている。

#### カ 課題

・養護利用者には個室希望が多く、二人部屋の万寿園は入所者の確保に苦戦している。しかし、逆に緩やかな見守りや声掛けがしやすい環境であり、認知症や精神疾患者の紹介が増えている。  
・上記を踏まえ、認知症や精神疾患の利用者への理解を深め、対応のスキルアップが必要である。また、柔軟な入院対応も含めた精神科、多摩あおば病院との連携確保は引き続き非常に重要である。  
・二人部屋という前提は変わらないものの、大規模修繕によりベッドのレイアウトや内装が大幅に改善された生活環境について各市区町村にPRを継続していく。

### (2) 軽費老人ホーム第三万寿園

#### ア 在籍者率

・待機者は年間を通じて20～30名程度ある。退所があった場合には速やかな入所を行うことで、前年度に引き続き99.8%の高い在籍者率となった。

稼働率100%の目標に対しては、予測が出来ない月末退所への対応が課題である。

#### イ 入所状況

・今年度は7名の入所であった。入所事由の傾向としてはADLの低下、軽度認知症や精神疾患などがあり、入所直後から介護サービスの利用を開始する必要があると見込まれる方も受け入れている。

## ウ 退所状況

- ・6名が退所。内訳は死亡2名、特養等入所2名、長期入院2名。

## エ 要介護認定者

- ・全体の認定者率は前年度と変わらず54%。退所者の多くは介護保険利用者が大半であった。
- ・自立前提の施設ながら、要介護1が18名、要介護2が3名となっている。

## オ 介護サービス利用状況

- ・ヘルパーによる家事支援が一番多く、次いで通所介護、ヘルパーによる入浴介助、福祉用具貸与と続くが、サービス利用の総量に大きな変化はない。

## カ 課題

- ・軽度認知症や精神疾患がある利用者への対応が増えている。
- ・認知症や精神疾患の利用者に対して利用者間の理解や家族の協力がさらに必要になっている。
- ・身元引受人を立てられない方や身元引受人が兄弟姉妹などの高齢者である方の入所申込みが増えてきており、社協の権利擁護推進センターや成年後見制度、後見NPO等の資源活用を推進していく必要がある。
- ・現在の待機者数の多くは心身機能の低下、身元引受人確保が困難など、課題を抱えている。このため、待機者の状況を定期的に把握し、スムーズな入所のための検対応が必要である。

## 2 苦情処理

### ア 苦情処理報告 6件

利用者からの他利用者の言動に対する苦情2件、食事提供に関する苦情2件、職員の言動に関する苦情1件、施設設備の故障周知に関する苦情1件

### イ 苦情委員会への報告 0件

早急に報告すべき苦情等は発生しておらず、毎年行う「苦情解決第三者委員と苦情解決責任者との懇談会」の開催時に年間の報告をし、委員の意見を伺っている。

## 3 事故・ヒヤリハットの状況

### 1) 事故報告(重大事故) 年間13件

- ・概要 転倒による怪我8件(うち骨折6件・転倒による裂傷や打撲2件)  
浴室での急死1件、誤薬2件、無断離設による保護1件、その他1件

### 2) 軽微事故報告 年間111件

- ・概要 転倒 70件 誤認・連絡ミス5件 物損4件、異物混入2件  
薬関係9件 無断離設による保護5件、誤認連絡ミス6件、対応忘れ4件  
その他6件

### 3) ヒヤリハット報告 年間97件

- ・概要 転倒(怪我なし)67件。利用者に関するもの3件 職員の対応に関するもの 24件  
物品に関するもの3件

## 4. 福祉サービス第三者評価受審

2020年度は利用者調査を行う予定であったが、東京都福祉保健局から、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から第三者評価の利用者調査の実施が出来なくてもやむを得ないとの通知もあり、利用者調査の実施を見合わせることにした。

## II 事業課題への取り組み

### 1 利用者の個別状況に則した支援の実践と支援内容の質の向上

項目	実施内容
1 利用者の意思を尊重した、質の高いケアの実践	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援計画策定において利用者の生活の希望を聞き、各職種が意見を出し支援計画カンファレンスで協議し支援計画に反映させた。</li> <li>ケース会議、ケースカンファレンス及びフロアミーティングで支援内容を評価し見直しながら、会議録や「職員掲示板」を活用し、情報の共有化を図ることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援計画の目標を実現するため、PDCAサイクルによる支援の検証と改善の徹底。</li> <li>一貫した支援のための情報の共有と利用者の状態変化に合わせたタイムリーな見直し。</li> <li>職員の対人援助技術の向上。</li> </ul>
2 利用者本位の生活支援の実践	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大によりほとんどの行事は実施できなかった。</li> <li>新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令中は、外出自粛に協力をお願いしたため、利用者の要望を伺い買い物代行を実施した。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも実施可能な催しや支援を考えて取り入れる。</li> <li>利用者個別の要望に応える支援（個別支援）</li> <li>利用者担当職員が利用者への働きかけを積極的に行い対応すべきことを把握する。</li> </ul>
3 安全対策の強化及び事故防止の徹底	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>転倒防止のためのリハビリは、新型コロナウイルス感染防止によりグループリハビリを中止している。</li> <li>事故防止委員会の開催の時期や内容についての見直しをした。</li> <li>事故報告書の作成をファイルメーカーの機能を生かし、半自動的に入力ができるよう様式変更を行ったが、報告書作成は職員の個人差があり時間がかかる場合が多くありタイムリーな情報の周知に課題がある。</li> <li>自立浴の利用者の入浴中の急変による死亡事故があった。</li> <li>10月の薬関係の事故の頻発を契機として、薬をセットした看護職員とは別の職員による二重チェックや、薬を配置した支援員とは別の職員による二重チェック、また看護が行う薬の仕分け業務の作業場所を決め専念するなど、それぞれの対策を徹底した効果により、薬に関する事故ヒヤリの件数が減少した。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で心身機能の低下を防ぐ施設内リハビリの実施に向けた検討を行う。</li> <li>事故報告書の迅速な作成と対策の周知、また事故防止委員会を機能させ対策の効果や継続性を検証する。</li> <li>浴室使用について時間や場所を制約することも含め、安全を最優先した浴室使用の見直しを行う。</li> <li>薬に対する事故の再発防止徹底の為、対策がきちんと徹底されているかの確認を継続し行っていく。</li> </ul>

4	施設運営へ利用者意向の反映促進	<p>【評価】：C</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロア別懇談会及び利用者懇談会は新型コロナウイルス感染対策のため、集団で集まる懇談会は実施しなかったが、フロアごとに連絡し利用者からの意見を聞いた。</li> <li>・福祉サービス第三者評価の利用者調査の受審は見送った。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が集合する懇談会に代わって利用者意向をくみ取るため、項目ごとの利用者意向調査（アンケート）を実施する。</li> </ul>
5	「健康の維持」「食の楽しさ」に向けた取り組み	<p>【評価】：A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の質の向上のためセントラルキッチンとの密接な連携を目指しているが、料理の評価や出来上がり状態の希望の伝達に留まっている。</li> <li>・2020年度より既存業者を1社契約終了、新規業者の2社増の食材納品業者の見直しを行ったことで、食材の種類も増加と食材費の価格の見直しができた。</li> <li>・「照り焼きハンバーグ」「あんかけ焼きそば」「タラモサラダ」など新しい献立を取り入れ食の充実を図ることができた。</li> <li>・「ラーメン」や「エビフライ」の献立でフロアごとの提供を試みた。ワンフロアに限定することで作りたての食事を提供することができ、利用者から普段の献立より熱々で美味しいと好評価であった。</li> <li>・嚥下機能低下に対応するトロミ食や水分量を変更した食事の提供やタンパク制限、塩分制限、カリウム制限に対応することで個々の利用者の状況や希望に沿った「食」を提供することができた。</li> <li>・節句料理(端午、七夕、正月、節分、ひな祭り)、敬老祝い膳、母の日・父の日の料理、クリスマス食、年越しそばなど、日本の季節や伝統的な行事に合わせた料理を提供した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対応により、新しい食環境の検討を行えなかったため「お楽しみ食」「バイキング」は実施出来なかった。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に対応し、フロア毎に出来立て料理を楽しむ機会の拡充や、少人数で食事を楽しむことが出来る方法を検討する。</li> <li>・食事サービス会議で各職種からの食事提供に関する意見を集約し、食事サービスの向上を図る。</li> </ul>
6	医療機関との連携協力による健康維持の推進	<p>【評価】：B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託医及び、他医療機関と情報交換を密に行い、入退院判断及び受診先との連携に努め、疾患の早期発見・早期治療を目指した。</li> <li>・園での新型コロナウイルス感染者発生時には、外部の医療機関の受診は不可であったため、各病院へ電話診察による処方薬を受けられるよう対応した。また、透析通院者のクリニックには、園での感染状況説明もを行い、透析クリニックでの感染対応のお願いをした。</li> <li>・夜間緊急受診に対応するための利用者の個人ファイルの更新はできたが、緊急時受診のマニュアル作成はできなかった。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急受診時にどのように動いたらよいか、わかりやすく写真などを利用してのマニュアル作成に取り組む。</li> </ul>

## 2 地域とともに支え合う施設づくり

項 目		実施内容
1	地域支援・地域交流の促進	<p>【評価】： C</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大により、近隣の学校・保育園との交流や地域交流納涼大会、いきいき健康講座、体操教室、日曜レストランなど、2020年度の地域交流は全て中止とした。</li> <li>・地域のイベントへの利用者参加、近隣施設との利用者交流も中止した。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策に配慮した、新たな地域支援・地域交流を行う方法について、統括事業所第二万寿とともに検討する。</li> </ul>
2	利用者ニーズに応じた地域資源の活用	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言中の外出禁止とした期間中は、ボランティアを活用しながら職員主体で買い物代行を行うことができた。</li> <li>・新型コロナウイルス対策による利用者の外出に対する制限を行ったため近隣学校や保育園との交流や公共施設の利用にも制限があった。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアや児童・生徒など人的社会資源を活用した利用者の社会活動を充実させるよう、地域の学校との交流方法を考える。</li> </ul>

## 3 健康管理・感染症対策への取り組み

項 目		実施内容
1	感染症予防等	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度は12月末から、新型コロナウイルス罹患（陽性者）があった。初期発症が確認できてからの、利用者隔離法・濃厚接触者への対応法・保健所との連携・各職種参加の毎日の感染症対策会議・職員利用者の毎日の体温計測など、職員全員での取り組みにより、発症者を少人数で抑えることが出来た。</li> <li>・発生時に毎日利用者に放送で現状を周知し、不安の軽減に配慮するとともに、感染対策の徹底の理解と協力を求めた。</li> <li>・感染症の疑わしい症状の利用者が発見された場合、全職種による「感染症対策会議」を開催し、共通認識のうえ対応を実施した。</li> <li>・新型コロナウイルスの全国的な感染が拡大している状況の中、厚生労働省や東京都などからの情報をもとに、日々変化する状況に対応すべき課題について職員への周知と対応に努めている。</li> <li>・「新型コロナウイルス」について、口頭やポスターなどで利用者が理解できるよう工夫した。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤職員も含めた感染症予防研修の継続と、感染症発生時における拡大防止等の的確な対応が必要である。第一感染者発生時及び状況の変化による対応として、速やかに「感染症対策会議」を開催し全職員が共通の認識のなか対応を行う。</li> <li>・感染症対策として、1日2回の全館放送により、職員…廊下・食堂などの換気、利用者…居室の窓・ドアを開け全館の換気を行う。</li> <li>・普段から「新型コロナウイルス」への新しい情報収集を行い、対応及び事業継続を考えた準備を今後も継続し行う。</li> <li>・有事に備え、平常時より感染対策の備品管理をしっかりと行う。</li> </ul>

2	利用者の健康管理	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防のため、施設全体で毎日利用者の検温を実施した。</li> <li>・利用者健康診断・検尿・血圧測定・体重測定（年2回実施）のところ、新型コロナウイルス発生のため、今年度は1回の実施に終わった。健診結果を受け嘱託医の指示のもと、利用者に対する早期対応を心掛けた。</li> <li>・歯科検診及び口腔ケア勉強会は、新型コロナウイルスのため行えなかった。</li> <li>・月1回の理学療法士によるリハビリや施設内リハビリ週1回の音楽療法、毎年行っている利用者の体力測定は、新型コロナ感染予防により中止した。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の健康診断は、感染対策をしっかりと行ったうえで、年2回必ず実施する。</li> <li>・利用者の歯科検診及び口腔ケア勉強会は感染対策を取り入れ、次年度は実施する。</li> <li>・コロナ禍で様々な活動が中止延期されるなかで、利用者の心身機能の低下が起こっている。施設内リハビリも感染対策を考えた実施方法を検討し再開させる。</li> </ul>
3	医療機関等との連携	<p>【評価】： A</p> <p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力医療機関としての協定を継続する。（緑風荘病院、多摩あおば病院、富士見歯科）</li> <li>・地域の他の医療機関との連携による受診・入院等（長期療養含む）について看護・相談が積極的に取り組んだ。（東大和病院、多摩北部医療センター、久米川病院、国分寺病院、一橋病院、新山の手病院、白十字病院、片岡眼科、徳島眼科など）</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々外部での定期通院が困難になった利用者の増加で、施設内における嘱託医受診の増加が顕著である。今後嘱託医との連携をさらに深めていく必要がある。</li> </ul> <p>また療養病床病院、リハビリ病院など新たな病院の開拓・関係の構築と連携を目指す。</p>

#### 4 施設経営基盤の確立・安全管理への取り組み

項目	実施内容
1	<p>養護 稼働率の維持</p> <p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに入所している利用者の生活支援を丁寧に行い、各実施機関から措置先として望ましいと評価されるよう連携し、関係を強化している。</li> <li>・緊急入所の相談や対応に苦慮すると思われるケースも、可能な限り受け入れている。</li> <li>・各実施機関と連絡を取った際には、空所状況等を伝えている。</li> <li>・入所時の移動手段などの相談には、個別の事情も考慮し支援している。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修が終了しさらなるハード面の改善は当面難しいため、それを補うことができる施設の強みや魅力を考え、より一層の磨きをかけて発信する。</li> <li>・認知症や精神疾患への理解を深め、対応のスキルアップを図る。</li> </ul>

2	生活環境の改善等事業運営の合理化、効率化に向けた現状の見直しと経費削減の推進	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の利用者対応が増えている現状に合わせ、宿直体制から夜勤体制の変更を検討していたが、新型コロナウイルスの施設内発症もありとん挫している。</li> <li>・施設運営の経費を意識し、日用品で配布するものの質は落とさず安価な商品に変更していくなど、経費削減に留意しながら進めている。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の変化に応じた業務の適正化のため、夜勤体制への移行を目指す。</li> <li>・消耗品など物品の購入から施設管理費などすべての経費に対し留意し、全職員が無駄のないよう経費削減に取り組む。</li> </ul>
---	--	--

## 5 職員スキルの向上等

項目	実施内容	
1	内部・外部研修	<p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤職員にも研修の機会を拡充しビデオ研修を取り入れた虐待防止研修を行った。研修を受けた後、業務に生かせる点を振り返ったことで、研修の効果を把握することができた。</li> <li>・感染症研修は、感染症流行前に行えるよう計画的に実施する必要がある。</li> <li>・外部の研修には感染症感染のリスクを配慮し参加は見合わせたが、オンラインの研修には参加した。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修委員会を機能させ、年間及び職員個別の研修を計画的に行う。</li> <li>・研修に参加した職員の理解度の把握と研修の効果を研修後に確認する。</li> <li>・コンプライアンス研修、サービスマナー研修をしっかりと実施し、利用者接遇のサービス向上を図る</li> <li>・ビデオ研修を定期的に取り入れ、非常勤職員への研修も充実させる。</li> <li>・感染症予防のため、オンライン研修に重点を置き実施する。</li> </ul>

## Ⅲ 2020年度万寿園・第三万寿園拠点区分決算概要

別紙のとおり

2020年度 万寿園拠点区分決算概要

(1) 事業活動計算書(概要)

(単位:千円)

	当年度 決算	前年度 決算	増減
サービス活動収益 計	342,612	333,126	9,486
老人福祉事業収益	339,439	333,116	6,324
その他	3,172	10	3,162
サービス活動費用 計	307,638	318,480	△10,842
人件費支出	178,840	182,204	△3,364
事業費支出	88,924	98,103	△9,179
事務費支出	21,798	24,500	△2,702
減価償却費	34,081	28,270	5,811
国庫補助金等特別積立金取崩額	△16,005	△14,596	△1,409
			0
			0
<b>サービス活動増減差額</b>	<b>34,974</b>	<b>14,646</b>	<b>20,328</b>
サービス活動外収益 計	468	783	△315
サービス活動外費用 計	575	708	△133
<b>サービス活動外増減差額</b>	<b>△107</b>	<b>75</b>	<b>△182</b>
<b>経常増減差額</b>	<b>34,867</b>	<b>14,721</b>	<b>20,146</b>

特別収益 計	954	49,600	△48,647
施設整備等補助金収入	954	49,500	△48,546
その他	0	100	△100
特別費用 計	55,354	67,312	△11,959
固定資産売却損・処分損	0	17	△17
国庫補助金特別積取崩額	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額	954	49,500	△48,546
拠点区分間繰入金費用	54,400	6,400	48,000
その他	0	11,396	△11,396
<b>特別増減差額</b>	<b>△54,400</b>	<b>△17,712</b>	<b>△36,688</b>

<b>当期活動増減差額</b>	<b>△19,533</b>	<b>△2,991</b>	<b>△16,542</b>
前期繰越活動増減差額	67,357	46,739	20,618
<b>当期末繰越活動増減差額</b>	<b>47,825</b>	<b>43,748</b>	<b>4,076</b>
その他の積立金取崩額	48,000	23,609	24,391
その他の積立金積立額	44,140	0	44,140
<b>次期繰越活動増減差額</b>	<b>51,685</b>	<b>67,357</b>	<b>△15,673</b>

次期繰越活動増減差額  
年間サービス活動費用の約

2.0 カ月分

貸借対照表 (概要)

(単位:千円)

	当年度末	前年度末	増減
流動資産	141,537	103,627	37,910
現金預金	135,294	98,007	37,287
事業未収金	6,204	5,582	623
前払費用	39	39	0
固定資産	486,072	526,931	△40,859
基本財産 建物	201,699	233,914	△32,215
構築物	219	271	△52
車輛運搬具	630	1,031	△401
器具及び備品	3,820	3,258	562
有形リース資産	0	0	0
ソフトウェア	554	727	△173
退職給付引当資産	5,352	10,033	△4,681
人件費積立資産	68,785	96,785	△28,000
施設整備等積立資産	204,915	180,775	24,140
長期前払費用	97	136	△39
<b>資産の部合計</b>	<b>627,610</b>	<b>630,558</b>	<b>△2,949</b>
流動負債	72,161	35,844	36,317
事業未払金・その他の未払金	55,950	17,980	37,970
1年以内返済予定リース債務	0	0	0
未払費用	6,423	5,975	448
預り金	1,000	1,455	△456
職員預り金	257	310	△53
賞与引当金	8,531	10,123	△1,593
固定負債	5,352	10,033	△4,681
リース債務	0	0	0
退職給付引当金	5,352	10,033	△4,681
<b>負債の部合計</b>	<b>77,513</b>	<b>45,877</b>	<b>31,636</b>
基本金	134,063	134,063	0
国庫補助金等特別積立金	90,649	105,700	△15,051
その他の積立金	273,700	277,560	△3,860
次期繰越活動増減差額	51,685	67,357	△15,673
(うち当期活動増減差額)	△19,533	△2,991	△16,542
<b>純資産の部合計</b>	<b>550,097</b>	<b>584,681</b>	<b>△34,584</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>627,610</b>	<b>630,558</b>	<b>△2,949</b>

2020年度末積立資産残高 (退職給付引当資産を除く)

人件費積立資産	68,785
施設整備等積立資産	204,915



2020年度 第三万寿園拠点区分決算概要

(1) 事業活動計算書(概要)

(単位:千円)

	当年度 決算	前年度 決算	増減
サービス活動収益 計	136,972	135,253	1,719
老人福祉事業収益	136,972	134,827	2,145
その他	0	426	△426
サービス活動費用 計	137,175	129,919	7,256
人件費支出	97,580	90,099	7,481
事業費支出	24,184	24,879	△694
事務費支出	8,315	9,867	△1,552
減価償却費	11,406	9,841	1,565
国庫補助金等特別積立金取崩額	△4,311	△4,768	457
			0
			0
<b>サービス活動増減差額</b>	<b>△203</b>	<b>5,334</b>	<b>△5,538</b>
サービス活動外収益 計	17	141	△124
サービス活動外費用 計	191	312	△121
<b>サービス活動外増減差額</b>	<b>△174</b>	<b>△171</b>	<b>△3</b>
<b>経常増減差額</b>	<b>△378</b>	<b>5,163</b>	<b>△5,541</b>

特別収益 計	22,318	37	22,281
施設整備等補助金収益	318	0	318
拠点区分間繰入金収益	22,000	0	22,000
その他	0	37	△37
特別費用 計	2,818	7,277	△4,459
固定資産売却損・処分損	0	6	△6
拠点区分間繰入金費用	2,500	2,500	0
その他	318	4,772	△4,454
<b>特別増減差額</b>	<b>19,500</b>	<b>△7,240</b>	<b>26,740</b>

<b>当期活動増減差額</b>	<b>19,122</b>	<b>△2,077</b>	<b>21,199</b>
前期繰越活動増減差額	12,867	△2,950	15,816
<b>当期末繰越活動増減差額</b>	<b>31,989</b>	<b>△5,027</b>	<b>37,016</b>
その他の積立金取崩額	0	25,319	△25,319
その他の積立金積立額	25,683	7,425	18,258
<b>次期繰越活動増減差額</b>	<b>6,306</b>	<b>12,867</b>	<b>△6,561</b>

貸借対照表 (概要)

(単位:千円)

	当年度末	前年度末	増減
流動資産	27,362	30,364	△3,002
現金預金	4,887	30,186	△25,299
事業未収金・未収金	22,459	161	22,298
立替金・前払費用	17	16	0
固定資産	153,787	138,512	15,275
基本財産 建物	66,867	78,058	△11,191
構築物	73	90	△17
器具及び備品	824	385	439
建設仮勘定	0	0	0
有形リース資産	0	0	0
ソフトウェア	118	154	△36
退職給付引当資産	10,423	10,009	414
人件費積立資産	23,280	21,280	2,000
施設整備等積立資産	52,160	28,477	23,683
長期前払費用	41	57	△16
<b>資産の部合計</b>	<b>181,149</b>	<b>168,875</b>	<b>12,274</b>
流動負債	11,980	15,250	△3,270
事業未払金	3,675	6,535	△2,861
1年以内返済予定リース債務	0	0	0
未払費用	3,411	3,558	△147
預り金	0	0	0
職員預り金	215	208	6
賞与引当金	4,680	4,948	△268
固定負債	10,423	10,009	414
リース債務	0	0	0
退職給付引当金	10,423	10,009	414
<b>負債の部合計</b>	<b>22,404</b>	<b>25,259</b>	<b>△2,856</b>
基本金	57,456	57,456	0
国庫補助金等特別積立金	19,544	23,536	△3,993
その他の積立金	75,440	49,757	25,683
次期繰越活動増減差額	6,306	12,867	△6,561
(うち当期活動増減差額)	19,122	△2,077	21,199
<b>純資産の部合計</b>	<b>158,745</b>	<b>143,616</b>	<b>15,129</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>181,149</b>	<b>168,875</b>	<b>12,274</b>

2020年度末積立資産残高 (退職給付引当資産を除く)

人件費積立資産	23,280
施設整備等積立資産	52,160

次期繰越活動増減差額  
年間サービス活動費用の約

0.6 カ月分